






## 【解答】 問題 1 (配点 50 点)


リーチをすれば、(配点 14)




他家 (特に南家・西家) の着順アップのための条件緩和になる (4 点)。  
また、家の攻撃に対して無防備になり、放銃により大きく順位点を失う可能性が増える (4 点)。  
流局すればノーテン宣言することによりトップを維持できるがリーチをすれば強制的にテンパイ宣言する必要がある  
るのでその可能性も失うことになる (6 点)。

ため、できればリーチをしたくない。


リーチをしない前提だと、 を引いた場合の 2900 点の価値は低いため。 を残す価値も通常より低くなる。  
また、安全度に関しては、(配点 16)

通常のメンツ手進行にも関わらず (3 点) 有用な中張牌が余り (3 点) ターツ落としが入っている (3 点)、  
西家が最も進行度が早く見え (4 点)、  
その西家は  が 4 巡目に切られているため (3 点)  より  が安全に見える。

ため、安全度の面でも  を残した方が優位だと考えた。

また   をチーして打  でテンパイに取った場合、他家は、「仮にチーしてテンパイだとすると (配点 20)

完全安全牌の東をイーシャンテン時に切っているため (5 点)、  
チー出しの牌が関連牌であることが濃厚になるため (5 点)、  
マンズ待ちが濃厚となり (5 点)、  
他の色はシャンポンに当たらない牌を切ることができる (5 点)

」と読むため  をテンパイまで手牌に持つことにもデメリットがあると考えた。

## 【解答】問題2 (配点 50 点)

他家の動向について、東家は、(配点 4)

ツモ番一回を残して南家に通っていない4sを切ってくる以上 (2点)、  
少なくともテンパイかイーシャンテンである (2点)。

他家の動向について、西家は中張牌の切れ具合からテンパイの可能性が高く、(配点 10)


翻牌がすべて切れているので (1点)、タンヤオの可能性が高い (1点)。

待ちはリャンメン待ちであれば、 待ち (2点)、 待ち (2点)、

カン 待ち (2点) やカン 待ち (2点) やカン 待ち (2点) など待ちの候補である。

他家の動向について、北家は、(配点 4)

北家は の合わせ打ち (1点) や対子落とし (1点) からオリていると思われる (2点)。

各打牌の比較だが、まず打 は下記の理由により論外。(配点 2)

西家に放銃する可能性が高く (1点)、また東家にも放銃する可能性があるため (1点)

以下、打 の比較に関してのみ言及する。

自分の和了に関しては、(配点 4)





何を切っても1枚待ち (2点) で和了自体が厳しいため役の有無はほとんど考慮する必要がない (2点)。

現状の放銃率に関して、西家に対しては、(配点 6)

 は放銃するなら単騎待ちだが、 対子落としの可能性は低い (2点)。打 は 待ちでしか放

銃しないが が関連している複合系が存在しないため放銃する可能性は低い (2点)。

東家に対しては、(配点 6)



 は現物。後のない親番にも関わらず (2点) 対子落としをしているので (2点)、 単騎のテンパイが入っている可能性は低い (2点)。

その他に考慮する要素としては、(配点 14)

海底でテンパイを維持したまま切りづらい牌を切らずに済むのは を引いた場合 (2点) で打 や打 の

場合は安全にテンパイを維持できる (2点) が打 の場合は を切る必要がある (2点)。

打 のメリットとしては、最後の の所在は王牌か北家の可能性が高く (2点)、

北家が を切った際にフリテンポン打 することで (2点)、東家のツモ番を飛ばすことができ (2点)、  
かつ自分のツモ番も消えるので安全にテンパイを維持したまま流局を迎えることができる (2点)。